

平成 27 年度『伊勢志摩定住自立圏共生学』現地学修（鳥羽市答志島）実施報告書

学修先	鳥羽市答志島
日程	平成 27 年 9 月 11 日(金) 9:50~18:50
目的	・鳥羽市の離島における地域課題と地域資源の理解 ・離島の資源を有効に活用した各種メニューのプロデュースを行っている「島の旅社」の活動をツアーに参加しながら学ぶ。
移動方法	中型バス 1 台(定員 28 名)借上げ 三重交通 鳥羽市営定期船（佐田浜 ⇄ 和具）
参加者 (15 名)	学生 10 名（文学部 2 年）男子 5 名・女子 3 名 （教育学部 2 年）男子 1 名・女子 1 名 教職員 5 名（齋藤教授、板井准教授、池山助教、橋本課長、森）
対応者	島の旅社推進協議会 山本氏、濱口氏 鳥羽市企画財政課企画経営室 山下氏
行程	9:50 大学本部前集合 10:00 大学出発 →→（バス）→→ 二見経由 10:30 佐田浜マリンターミナル 着 10:45 佐田浜マリンターミナル 発 →→（鳥羽市営定期船）→→ 11:00 和具港 着 ---（徒歩）--- 答志コミュニティアリーナ 11:15 「島の旅社」の設立経緯、活動内容などについて説明（@アリーナ内会議室） 12:00 昼食（@アリーナ内会議室） 島むすび弁当 13:00 答志島内路地裏散策ツアー 体験（徒歩） アリーナ 発 --- 美多羅志神社 --- 潮音寺 --- 神祭の舞台 ---（途中、路地裏散策）--- 答志島漁港 --- 海女小屋 --- 市営定期船乗り場 --- アリーナ 着 15:15 シェルキャンドル製作体験（@アリーナ内会議室） 16:00 振り返りワーク 17:00 コミュニティアリーナ 発 17:20 和具港 着 17:40 和具港 発 →→（鳥羽市営定期船）→→ 18:05 佐田浜マリンターミナル 着 18:15 佐田浜マリンターミナル 発 →→（バス）→→ 二見経由 18:45 大学 着、解散
配布された資料	①答志島ウォーキングマップ(鳥羽市観光課)／②がいええ答志島(島の旅社)／③ないものねだりからあるもの探しへ(島の旅社、説明資料)
その他	* 昼食は「島むすび弁当(¥700)」を「島の旅社」へ予約 * 学生参加費 700 円（証明書発行機にて手続き） * 振り返りワーク終了後、アンケート実施。

【学修内容】

■「島の旅社」設立経緯、活動内容等

答志島コミュニティアリーナにて「島の旅社」山本氏からご説明いただいた。

<答志島>

三重県内最大の有人離島で答志町、和具浦、桃取町の2町3集落からなる。

人口：2,274人（H27.6末現在） 高齢化率37.1%で島民の40%以上が漁業に従事

<設立までの経緯>

平成13年 2005年鳥羽市戦略プランとして「島の旅社」提案。

平成14、15年 島民意識調査、海岸線調査などの調査実施。

「島の旅社」設立準備会結成、モニターツアー実施

平成16年 事務所を答志島内に開設。スタッフを募集し、活動を開始。

（現在、中心となって活動しているメンバーは5名）

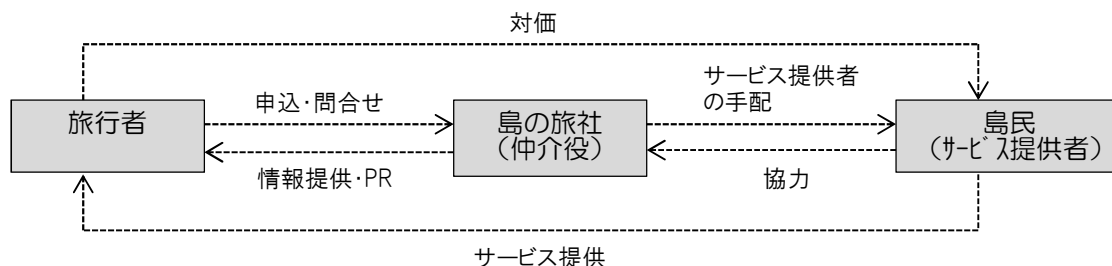


コミュニティアリーナにて山本氏から説明を伺う

<目的>

- ・島民自ら「島の旅社」を運営することで島からの情報発信を活性化。島への来訪者が増え、交流が活性化することで島の産業を活性化させる。
- ・島民がサービス提供者となって島ならではのおもてなしをすることで、活躍の場を作り、生きがいを生み出す。

<活動の流れ>



<活動内容> 現在は着地型のみの取扱い（参照 <http://www.shima-tabi.net/index.html>）

- ・ウェルネスの旅
- ・路地裏つまみくい体験
- ・浮島自然水族館
- ・各種体験メニュー（海女小屋体験、魚つかみどり、漁船クルージング）等



『島むすびべんとう』

<今後の課題>

今後の課題としては、①人材確保・育成、②集客、③採算性、④他地域との連携などが挙げられる。

■路地裏散策ツアー体験

「島の旅社」山本氏にガイドいただきながら、路地裏散策ツアー体験を行った。徒歩で島内をめぐり、歴史的資源（美多羅志神社、潮音寺）の紹介や神祭舞台では島に伝わる伝統的な祭りについてお話いただいた。また途中、路地で見かける島独自の風習（①まる八、じんじろ車、寝屋子制度）、方言など大変興味深いお話をたくさんうかがうことができた。



左から、島の洗たく場の説明、「㊦まる八」、「じんじろ車」

■シェルキャンドル製作体験

クルージング体験を予定していたが、強風により急遽取りやめとなったため、アリーナ会議室で「島の旅社」の体験活動メニューのひとつであるシェルキャンドル製作体験を行った。



シェルキャンドル製作体験

■学修の振り返りワーク

板井准教授、池山助教による振り返りワークをアリーナ会議室で行った。

学生が円座になって、2人1組で現地学修に行く前後での島の印象などについてお互いにインタビューをし、その内容について各人1分ずつの発表を行った。

『伊勢志摩定住自立圏共生学』現地学修 参加学生アンケート集計結果

(鳥羽市答志島：平成27年9月11日 9：50～18：50実施)

問	アンケート項目	内容	大学の授業で	案内チラシ・ポスター	就職担当を通じての案内メール	知人から	その他	合計
1	今回の現地学修は何を通じて知りましたか。(複数回答可)	回答数	4	2	2	1	0	9
		構成比	44%	22%	22%	11%	0%	100%
2	今回の現地学修に参加した理由は何ですか。(複数回答可)	内容	定住自立の問題に関心・興味があるので	興味のある学習プログラムだったので	知人に誘われて	地域の活動に関心があるので		合計
		回答数	1	4	3	1		9
		構成比	11%	44%	33%	11%		100%
3	今回の現地学修に参加したことによって、新たな気づきや発見が得られましたか。	内容	大いに得られた	得られた	どちらでもない	あまり得られなかった	得られなかった	合計
		回答数	2	4	1	0	0	7
		構成比	29%	57%	14%	0%	0%	100%
4	今回の現地学修に参加したことによって、圏域の定住自立に関する知見が得られましたか。	内容	大いに得られた	得られた	どちらでもない	あまり得られなかった	得られなかった	合計
		回答数	2	3	2	0	0	7
		構成比	29%	43%	29%	0%	0%	100%
5	学修内容は適切に設定されていたと思いますか。	内容	適切だった	まあ適切だった	どちらでもない	やや物足りなかった	不適切だった	合計
		回答数	6	1	0	0	0	7
		構成比	86%	14%	0%	0%	0%	100%
6	今回の現地学修に参加して、圏域の定住自立について新たな興味・関心が生まれましたか。	内容	大いに生まれた	生まれた	どちらでもない	あまり生まれなかった	生まれなかった	合計
		回答数	3	3	1	0	0	7
		構成比	43%	43%	14%	0%	0%	100%

問3について。得られた気づきや発見とは、具体的にどのようなものですか。

- ・大学の講義を受けるだけでは得られない学修が現地では得られることに気づいた。
- ・答志島内での移動手段でヘルメットなしに原付に乗っていた。
- ・民家が密集している地域があった。
- ・東西で文化が異なっていた。
- ・同じ三重県内でも一歩外に出れば全く違った世界が広がっており、例えば答志島の皆さんはほとんどが顔見知りであったり、お互いを信頼し、うまくは言えませんが答志島の皆様の温かさを感じました。
- ・大学からさほど距離としては離れてはいない答志島であるが、文化としては大きな違いがあった。中でも寝屋子制度は驚きであった。
- ・離島だからといって活動の幅を狭くするのではなく、逆手にとって人を呼び込もうとしていたところ
- ・島民同士のつながりや信頼関係
- ・離島だからこそ発達してきた独自の文化

問6について。新たな興味・関心とは、具体的にどのようなものですか。

- ・獲れる魚介の種類。人口。
- ・島での日常生活に興味を持った。
- ・他の島や県外の暮らしも知りたいと思った。
- ・他の地域や島などでも現地調査してみたいなと思いました。
- ・答志島の中でも東と西で文化が違っていたりしたのでとても興味を持った。他にもこのような限られた空間での文化の違う場所を知りたいと思った。
- ・まだまだ知らないことがたくさんあるのでこれからも興味を持って参加などしてみたいなりました。
- ・今後、離島の文化がどのように保全されていくのか、それに対する島民の理解や活動

その他、今回の現地学修についてのご意見・ご要望や今後、定住自立に関することで現地学修や地域インターンシップで取り上げてほしいテーマがありましたら記載してください。